

地震について

● 震度と揺れ等の状況

震度 4

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

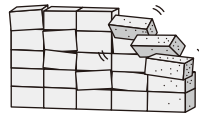


震度 5弱

- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

震度 5強

- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度 6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

震度 6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



震度 7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

● 地震で被災しないために、あらかじめ知っておきたいこと

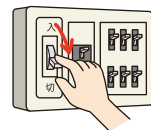
地震の揺れが始まったとき

1. 机や掘りごたつなどの下に潜り込みましょう。そのとき、片手でしっかりと机などの脚を握りましょう。奈良盆地東縁断層帯地震では、天理市内で立っておれない激しい揺れは長くても30秒程度ですが、南海トラフ沿いの地震では、1分以上続きます。この強い揺れの時間の長さで、2つの地震を見分けることができます。
2. 揺れている最中に、家を飛び出すのは大変危険です。家を出たとたん、車にはねられたり、隣の家のブロック塀が倒れて犠牲になった人がいます。
3. 石油暖房器具は転倒すると、自動的に消火します。ガス調理器具および暖房器具は地震時にマイコンメータが自動的にガスを遮断し、消火します。電気調理器具や暖房器具を使用中は、スイッチを切り、電気ケーブルをコンセントから抜きましょう。
4. 出火したら、すぐに必ず火を消しましょう。火災現場を離れず、身近なところに消火器や水がなければ、土の入った植木鉢を投げつけたり、座布団で叩いたりして消火しましょう。



地震の揺れが収まった後

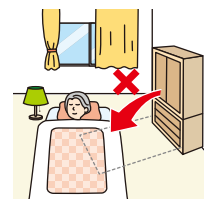
1. 夜起こると、停電します。懐中電灯をすぐに使えるように、身近なところに複数個用意しておきましょう。
2. 裸足は危険です！必ずスリッパや靴などを履いてから、部屋を移動するようにしましょう。割れた窓ガラスの破片や床に落ちて壊れた食器やガラス瓶を踏んで大けがをするからです。
3. 保護者のいる部屋と子どものいる部屋が違う場合、子どもは部屋から動かないで、揺れが収まってから、保護者が子どもの部屋に行き、安否を確認するようにしましょう。
4. 玄関のドアが開くことを確認し、中開きにしておきましょう。
5. 住宅が被災したので、避難所に向かう時には、停電していて電気がつかなくても、電気のブレーカーを落としましょう。これで、通電火災を防ぐことができます。
6. 備蓄品が入った重いリュックサックや非常持ち出し袋は、避難所に避難後、自宅の応急危険度判定によって安全が確認されてから取りに帰るようにしましょう。
7. 大規模災害時、自宅にいてもどこかへ避難する場合でも玄関に「無事です」と自身の安否を明示しましょう。



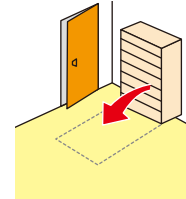
● 地震の時に家の中を安全にしておくために

寝室、出入口は空間を確保して家具を配置

就寝中に地震が起これば、家具などが倒れてくると危険です。

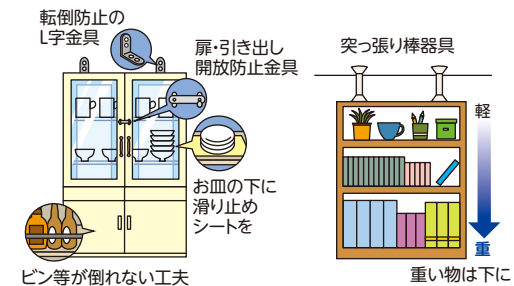


出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かないようにしましょう。



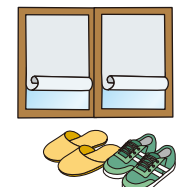
家具の転倒・落下を防ぐ

重いものや大きなものは棚の下の方に収納し、L字金具や突っ張り器具などで家具を固定しましょう。食器棚の棚板には滑りにくい材質のシートを敷きましょう。

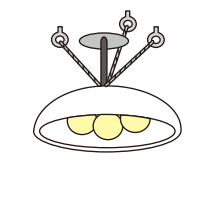


室内での備え

窓ガラスや食器類の破片対策として、飛散防止フィルム、靴やスリッパの準備をしておきましょう。



照明は、チェーンと金具を使って数箇所留める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで留めておく。



どうすればよいかわからないときは、あらかじめ天理市役所に問い合わせましょう。地震が起こってからでは遅すぎます。

● 外出先で地震に遭遇したときの注意

家にいるときに、奈良盆地東縁断層帯地震のような地震に遭遇するとは限りません。外出中に地震の激しい揺れに襲われた時の注意事項を知っておきましょう。

家の周囲では…

屋根からの瓦や窓ガラスの破片など落下物に注意しましょう。



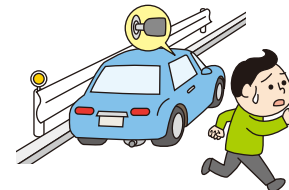
エレベータでは…

全ての階のボタンを押し、最初に止まった階でおります。動かない時は非常用連絡ボタンを押します。



車の運転中では…

道路の左側に停車しエンジンを切る。避難時は、車のキーはつけたままドアをロックしないで、車検証などの貴重品を持ち出す。



地下街では…

バッグなどで頭部を保護します。停電になっても非常灯がつくまで動かないようにします。



● もし、避難所で生活することになれば

どこに避難すればよいか、事前に知っておきましょう

指定避難所へ避難するとき

1. 最初の地震の揺れで被災した住宅は、そのまま住み続けると次の地震（余震など）の揺れで全壊・倒壊の恐れがあるので、住宅が危険な時は安全な場所へ避難しましょう。
2. 自宅から避難所に向かう時には、まず、電気のブレーカーを落として、通電火災を防ぎましょう。
3. 被害が大きければ大きいほど、避難所に来る被災者は多くなります。避難所には一般的に、十分な食べ物や飲み物は備蓄してありませんので、家を出るとき、負担にならない程度でそれらを避難所に持参しましょう。避難所では、被災者と分け合ひましょう。

※熊本地震では、間隔があいた状態で1回目2回目と大きな地震が来ました。

指定避難所の生活ルール

1. 避難所では、運営委員会で決定した避難所の運営ルールを守りましょう。
2. 避難所では禁酒、禁煙です。また、酒気帯びでの生活も禁止です。
3. 何か問題が起こったときは、すみやかに運営委員会で検討し、善処しましょう。